



岩倉市・蟹江町連携交流

2017年に定められた「愛知県西尾張市町村の災害対応に関する相互応援協定」に基づく実施細目で、

24年3月から相互に主たる応援市町村になっています。大規模な地震や風水害が発生した際は、被災者の受け入れなどを相互に対応します。避難などを円滑に行うためには、住民同士が互いに理解を深め、親近感をもつことが重要です。「岩倉市ふれ愛まつり」の際に、蟹江の特産物や酢・味噌・お饅頭などの販売を行っていましたし、い～わくんの友達が勢ぞろいした時にも「蟹江町のマスコット、かに丸くん」も登場しました。防災に限らずあらゆる分野で日頃からの連携・交流しています。今回は、

「令和7年度 岩倉市・蟹江町連携交流事業 ~歴史文化の学びを通した住民間交流~」からです

—岩倉市と蟹江町 比較—

項目	岩倉市	蟹江町
面積・人口	10.47 km ² ・ 48,000人	11.09 km ² ・ 36,500人
歳入・歳出総額（令和5年度）	185.6億円 177.8億円	132.3億円 126.5億円
財政力指数（令和5年度）	0.74	0.81
将来負担比率	4.0%	57.1%
特徴・名所	五条川沿いの桜並木 日本さくら名所100選	足湯かにえの郷,尾張温泉
まつり	一豊行列 さくらまつり ふれ愛まつり	須成祭（ユネスコ無形文化遺産、国指定重要文化財）
食文化	名古屋コーチン 卵かけご飯	水郷に関連する郷土料理
暮らしと魅力	桜と山車のまち コンパクトで便利 子育て支援が充実	水と温泉と祭りのまち 自然が豊か 移住支援
マスコット	い～わくん（五条川の精霊）	かに丸くん（蟹がモチーフ）

蟹江町について 町内には、6本の河川が流れており、町域の約5分の1を占める「水郷のまち」である。

原始・古代の遺跡は確認されておらず、飛鳥時代から奈良時代にかけて集落が形成されたと考えられている。町全域が海拔0メートル地帯であり、古くから水の恵みを受けて発展してきた一方で、水害に悩まされてきた歴史がある。蟹江城；1429～1441年間 北条時任が砦を築く。

蟹江合戦；1582年徳川家

康・織田信雄連合軍と羽柴（豊臣）秀吉による小牧・長久手の戦いのうち、蟹江城をめぐる一連の争奪戦をいう。

※岩倉とのつながり；建雲山龍潭寺（けんうんざんりゅうたんじ）、八剣砦

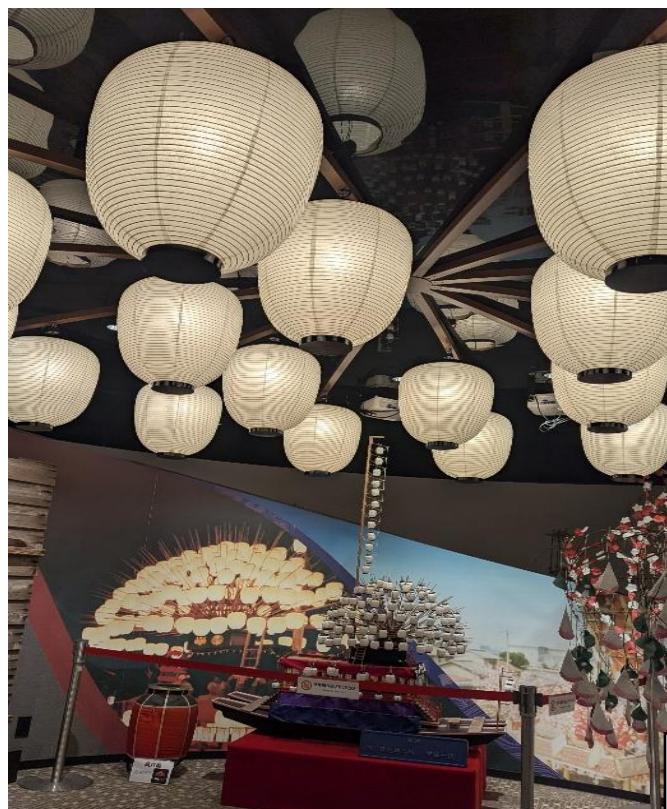
小牧・長久手の戦いの折り、徳川家康が建雲山龍潭寺で宿泊、織田信雄は八剣砦に陣を構える
(町史 p.730「小牧御陣の時、権現様当寺に12日の御滞留被遊・・」(八剣町山神碑に記載)。

蟹江町の歴史・産業・祭り・遊び・災害・教育・郷土ゆかりの人物などに対する特徴

蟹江町産業文化会館、蟹江町歴史民俗資料館、蟹江城址公園、蟹江町観光交流センター「祭人」等を見学。

資料館は①歴史と文化；機織りコーナー②郷土ゆかりの人物 小酒井不木の部屋 ③川・水と歴史・暮らし ④民族展示むかしの生活道具・図書コーナー 4つの部屋

に分かれて大切に展示されている。



須成祭ミュージアム映像技術（バーチャル・リアリティ、プロジェクト・マッピング）を活用した展示や祭りで使う道具を展示

産業コーナーでは、酒・みりん樽や温泉の看板、漁業で使った道具類が置かれ、説明文が付けられている。機織りコーナーでは機織染色學習会にメンバーが定期的に活動している。

蟹江町出身探偵小説家小酒井不木を紹介する室。不木は江戸川乱歩と深い交流があった。交友関係を示す手紙や机も展示



救急出動件数及び地区別の現場到着所要時間は？ から始まった

実際に測定

- ①消防本部⇒南進跨線橋⇒曾野幼稚園西⇒北進⇒第3分団まで・・・5分
- ②さらに北進⇒井上宅・・・4分 ③さらに井上町と江南市境・・・3分

資料；消防年報 岩倉市消防本部令和6年度 から抜粋

昭和48年 消防団第1分団車庫を神野町に新設

昭和49年 消防団第2分団車庫を稻荷町に新設

昭和50年 消防団第2分団車庫を本町に新設

昭和52年 消防団第3分団車庫を中本町に新設

昭和60年 消防団第2分団車庫を宮前町に移設建替

平成 6年 消防団第4分団に消防ポンプ自動車を更新配備

福井県和泉村と災害援助相互応援協定を締結

新消防庁舎による業務開始(現 川井町北穴田 119)

平成 10 年 消防に対する市民の理解と認識を深める目的で、第1回目の消防庁舎市民開放を実施

平成15年 消防団第3分団車庫を中本町で建替

消防署救急隊を第3分団車庫(中本町白山)へ分散配置

平成23年 小牧市ほか3市2一部事務組合の消防指令センターの設置に関する協定を締結

平成27年 消防団第2分団車庫を鈴井町に移設建替

尾張中北消防指令センター建屋が小牧市安田町118番地に完成

平成28年 消防通信指令事務共同運用開始(尾張中北消防指令センター)

令和 元年 愛知県表彰条例により消防団表彰受賞

令和 2年 消防署に消防ポンプ自動車を更新配備

令和 3年 消防署の高規格救急自動車を災害対応付加して増強配備

令和 4年 消防団第2分団に小型動力ポンプを更新配備

令和 5年 消防職員の条例定数を60人に変更(実職員数は57人)

消防署に災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車を更新配備

令和 6年 名古屋市救急救命研修所に教官1名を派遣

消防団第3分団に小型動力ポンプを更新配備

西尾張市町村の災
害対応に関する
相互応援協定
岩倉市・蟹江町連
携交流に関する
合意書

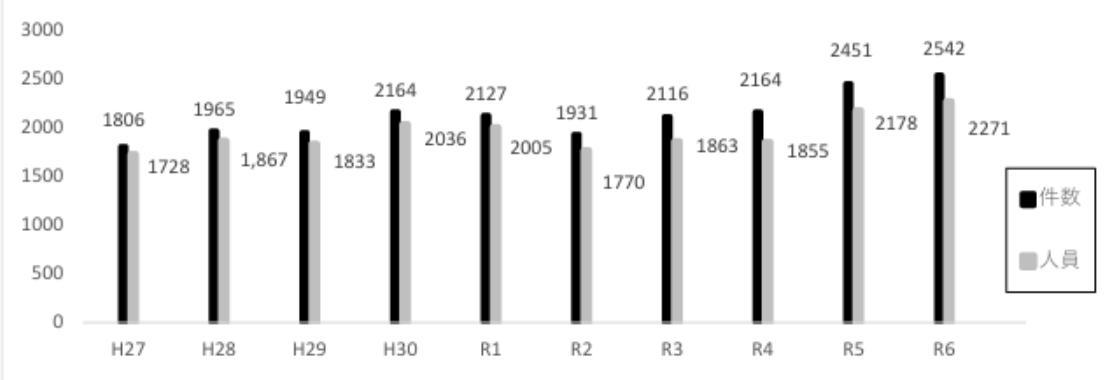
令和 7 年 9 月 7 日「消防庁舎市民開放」が行われ、多くの親子連れでにぎわいました。

消防庁舎の一般開放 はしご車試乗体験 放水体験 火災実験教室 心臓マッサージ体験 水消火器体験
スタンプラリー 一日消防署長（い～わくん） はしご車の試乗や放水体験など、普段はなかなかできない体験に子どもたちは大喜び！「火災実験教室」は大人気で、スプレー缶を使った爆発実験では、参加者からは驚きの声や歓声があがりました。

救急出場件数・搬送人員

年別 事故種別		H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6
火災	件数			2	1		1	2	1		
	人員			2	1		1	1	1		
自然災害	件数										
	人員										
水難	件数		1			1					1
	人員		1								
交通事故	件数	154	155	165	152	144	122	126	114	137	133
	人員	161	168	165	150	140	117	104	101	130	116
労働災害	件数	19	12	13	19	25	24	14	13	19	22
	人員	19	12	12	18	25	24	14	14	18	22
運動競技	件数	10	7	1	6	4		6	7	5	6
	人員	12	7	1	6	4		6	7	4	6
一般負傷	件数	215	244	270	278	268	276	303	326	348	359
	人員	195	226	250	258	259	251	268	281	311	324
加害	件数	8	4	5	7	3	2	7	10	3	4
	人員	8	3	5	6	1	1	4	6	3	2
自損行為	件数	12	14	8	13	10	13	17	20	12	21
	人員	10	10	6	9	7	10	8	10	11	17
急病	件数	1,219	1,349	1,264	1,436	1,404	1,240	1,331	1,413	1,674	1,722
	人員	1,176	1,278	1,202	1,367	1,345	1,168	1,220	1,229	1,496	1,542
その他	件数	169	179	221	252	268	253	310	260	253	274
	人員	147	162	190	221	224	198	238	206	205	242
計	件数	1,806	1,965	1,949	2,164	2,127	1,931	2,116	2,164	2,451	2,542
	人員	1,728	1,867	1,833	2,036	2,005	1,770	1,863	1,855	2,178	2,271

救急出場件数・搬送人員の推移



消防業務の事務組合 ⇒ 広域消防に移行 周辺市町との広域化

例1 衣浦東部広域連合消防局 構成市は 碧南市、刈谷市、安城市、知立市、高浜市

例2 知多中部広域事務組合消防本部 構成市町は 半田市、阿久比町、武豊町、東浦町

119番通報受信件数

(単位：件)

	火 災	救 急	救 助	その 他の 出動	いたずら	まち がい	その 他	計
1月		220	2	3		8	43	276
2月	6	192	2	2		11	43	256
3月	4	204		2		2	50	262
4月		186	2	3		10	25	226
5月	6	180	1	2		8	28	225
6月		154	2	4		8	44	212
7月	1	240	5			8	50	304
8月		215	2	4		13	35	269
9月	1	213	2	3		7	44	270
10月	1	184	2		1	10	48	246
11月	1	163	1	3		8	48	224
12月		220	5	1		12	60	298
合 計	20	2,371	26	27	1	105	518	3,068

